



## 2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2022年8月10日

上場会社名 株式会社QDレーザ 上場取引所 東  
 コード番号 6613 URL <https://www.qdlaser.com/>  
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 菅原 充  
 問合せ先責任者（役職名） 取締役CFO（氏名） 幸野谷 信次（TEL） 044-333-3338  
 四半期報告書提出予定日 2022年8月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

## 1. 2023年3月期第1四半期の業績（2022年4月1日～2022年6月30日）

## （1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	213	△4.3	△163	—	△148	—	△149	—
2022年3月期第1四半期	222	—	△200	—	△202	—	△206	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	△4.18	—
2022年3月期第1四半期	△5.96	—

（注）1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

## （2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	3,852	3,448	89.2
2022年3月期	4,018	3,583	88.9

（参考）自己資本 2023年3月期第1四半期 3,435百万円 2022年3月期 3,570百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	0.00	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年3月期の業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,277	16.0	△567	—	△558	—	△562	—	△15.73

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2023年3月期1Q	35,796,580株	2022年3月期	35,755,180株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2023年3月期1Q	181株	2022年3月期	86株
------------	------	----------	-----

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2023年3月期1Q	35,782,662株	2022年3月期1Q	34,584,100株
------------	-------------	------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(セグメント情報等)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルスの感染者数が抑制され、活動制限の緩和により消費活動が正常化に向かうなど経済活動改善の兆しが見られた一方、ロシア・ウクライナ情勢による資源価格や各種原材料価格の上昇、急激な円安の進行などが重なり、不透明な状況が続いており、今後はさらに新型コロナウイルス感染症の第7波の拡大懸念などもあり、引き続き先行き不透明な状況が続くと思われま

このような状況の中、当社ではテレワークやオフピーク出社を引き続き活用し、新型コロナウイルス感染症対策と生産性の維持の両立を図り、「人の可能性を照らせ。」のコーポレートスローガンのもと、多波長集積光源やレーザ網膜投影新製品開発、既存製品の販売拡大を進めてまいりました。

当社に関連する主な市場の状況について、レーザデバイス事業の分野ではセンサ用高出力レーザ製品が中国におけるロックダウンによる顧客工場操業停止の影響を受けたこと、前年同期にあった開発受託の大口引き渡しが今年にはなかったことから、全体として売上高は前年同期から減少したものの、概ね計画通りに推移しました。製品別では精密加工用DFBレーザ、バイオ検査装置用小型可視レーザが前年から増収となりましたが、センサ用高出力レーザは前年から減収となりました。また、開発受託は開発フェーズの進展によりレーザアイウェア事業へ移管されたため、売上計上はありませんでした。レーザアイウェア事業の分野では、前年同期の金融機関店舗向け大口販売がなかった一方、開発受託を新たに受注したため、前年から増収となりました。

この結果、当第1四半期累計期間の売上高は213,438千円（前年同期比4.3%減）、レーザアイウェア事業立ち上げ途上のために依然として販売費及び一般管理費が売上高を上回り、営業損失は163,415千円（前年同期は営業損失200,691千円）、経常損失は148,593千円（前年同期は経常損失202,745千円）、四半期純損失は149,558千円（前年同期は四半期純損失206,244千円）となりました。

セグメントごとの経営成績は次の通りであります。

#### a. レーザデバイス事業

当第1四半期累計期間におきましては精密加工用DFBレーザ及びバイオ検査装置用小型可視レーザの受注が増加した一方、中国のロックダウンにより高出力レーザの受注が減少し、また開発フェーズの進展に伴うレーザアイウェア事業への移管により開発受託の受注が減少しました。

この結果、当第1四半期累計期間の売上高は195,830千円（前年同期比5.2%減）、セグメント利益は7,208千円（前年同期はセグメント損失37,344千円）となりました。

#### b. レーザアイウェア事業

当第1四半期累計期間におきましては前年同期の金融機関店舗向け大口販売がなくなった一方、開発受託の受注が増加しました。

この結果、当第1四半期累計期間の売上高は17,608千円（前年同期比6.8%増）、セグメント損失は81,457千円（前年同期はセグメント損失73,922千円）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第1四半期会計期間末における総資産は前事業年度末から165,742千円減少し、3,852,324千円となりました。流動資産は3,576,736千円となり、前事業年度末から152,681千円減少しております。これは主にレーザデバイスの今後の販売に向けた部材調達により原材料及び貯蔵品が41,179千円、未収消費税の増加により未収入金が20,100千円増加した一方、四半期純損失の計上により現金及び預金が116,864千円、売掛金の回収により売掛金が71,751千円、在庫販売により商品及び製品が25,383千円減少したこと等によるものであります。固定資産は275,588千円となり、前事業年度末から13,060千円減少しております。これは主に減価償却により有形固定資産が12,195千円減少したこと等によるものであります。

#### (負債)

当第1四半期会計期間末における負債は前事業年度末から30,620千円減少し、403,952千円となりました。流動負債は355,274千円となり、前事業年度末から28,066千円減少しております。これは主に原材料仕入により買掛金が18,833

千円、賞与引当金が21,027千円増加した一方、1年内返済予定の長期借入金が返済により62,490千円、納税により未払法人税等が14,816千円減少したこと等によるものであります。固定負債は48,678千円となり、前事業年度末から2,554千円減少しております。これは主に長期借入金が返済及び1年内返済予定の長期借入金への振替により2,001千円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産は前事業年度末から135,122千円減少し、3,448,371千円となりました。これは利益剰余金が四半期純損失の計上により149,558千円減少した一方、新株予約権の行使により資本金が7,245千円、資本剰余金が7,245千円増加したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の業績予想につきましては、2022年5月12日公表の「2022年3月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)」の数値から変更はありません。また、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において当社が入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,821,052	2,704,187
売掛金	282,514	210,762
商品及び製品	281,550	256,166
仕掛品	72,002	77,421
原材料及び貯蔵品	158,017	199,197
未収入金	79,166	99,266
前払費用	16,107	17,726
短期貸付金	19,000	12,000
その他	6	6
流動資産合計	3,729,418	3,576,736
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備 (純額)	175,714	171,500
機械及び装置 (純額)	63,665	57,477
工具、器具及び備品 (純額)	12,517	11,237
リース資産 (純額)	2,167	1,653
有形固定資産合計	254,065	241,869
無形固定資産		
特許権	2,887	2,784
商標権	2,167	2,065
ソフトウェア	2,054	1,723
リース資産	1,647	1,317
無形固定資産合計	8,756	7,890
投資その他の資産		
関係会社株式	3,372	3,372
差入保証金	22,415	22,415
その他	40	40
投資その他の資産合計	25,827	25,827
固定資産合計	288,649	275,588
資産合計	4,018,067	3,852,324

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2022年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	143,475	162,308
1年内返済予定の長期借入金	91,404	28,914
リース債務	3,867	3,400
未払金	61,103	61,905
未払費用	4,489	5,082
未払法人税等	25,879	11,062
預り金	2,873	3,199
賞与引当金	45,159	66,186
その他	5,088	13,214
流動負債合計	383,341	355,274
固定負債		
長期借入金	15,988	13,987
リース債務	488	—
繰延税金負債	4,326	4,238
資産除去債務	30,429	30,452
固定負債合計	51,232	48,678
負債合計	434,573	403,952
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,564,185	2,571,430
資本剰余金	5,047,956	5,055,201
利益剰余金	△4,041,490	△4,191,048
自己株式	△129	△183
株主資本合計	3,570,522	3,435,400
新株予約権	12,971	12,971
純資産合計	3,583,494	3,448,371
負債純資産合計	4,018,067	3,852,324

## (2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
売上高	222,973	213,438
売上原価	186,411	157,381
売上総利益	36,561	56,057
販売費及び一般管理費	237,253	219,472
営業損失(△)	△200,691	△163,415
営業外収益		
受取利息	—	43
為替差益	168	15,565
その他	—	422
営業外収益合計	168	16,030
営業外費用		
支払利息	820	274
株式交付費	—	172
資金調達費用	750	750
賃貸費用	652	—
その他	—	10
営業外費用合計	2,223	1,207
経常損失(△)	△202,745	△148,593
特別損失		
減損損失	2,532	—
特別損失合計	2,532	—
税引前四半期純損失(△)	△205,277	△148,593
法人税、住民税及び事業税	1,053	1,052
法人税等調整額	△87	△87
法人税等合計	966	965
四半期純損失(△)	△206,244	△149,558

## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等)

## I 前第1四半期累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	レーザデバイス 事業	レーザアイウェア 事業	計		
売上高					
外部顧客への 売上高	206,490	16,483	222,973	—	222,973
計	206,490	16,483	222,973	—	222,973
セグメント損失 (△)	△37,344	△73,922	△111,266	△89,424	△200,691

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額△89,424千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△89,424千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

レーザアイウェア事業セグメントの固定資産において、想定していた収益が資産グループの想定耐用年数期間内に見込まれなくなり回収可能性が低下したため、減損損失を認識しております。なお、当該減損損失の計上額は、2,532千円であります。

## II 当第1四半期累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	レーザデバイス 事業	レーザアイウェア 事業	計		
売上高 外部顧客への 売上高	195,830	17,608	213,438	—	213,438
計	195,830	17,608	213,438	—	213,438
セグメント利益又 は損失(△)	7,208	△81,457	△74,249	△89,166	△163,415

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△89,166千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△89,166千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。